



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/3 (月)	+ 500	▲ 36,700	▲ 36,200	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (2年)	成長基盤 ▲ 6,700		日：日銀債券市場サーベイ (2月調査) 米：ISM製造業景況指数 (2月) 欧：ユーロ圏CPI (2月)
3/4 (火)	トン	▲ 45,000	▲ 45,000	法人税・消費税・保険料揚げ		成長基盤 + 800	日：失業率・有効求人倍率 (1月) 米：トランプ米大統領、議会演説
3/5 (水)	トン	▲ 30,000	▲ 30,000	国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		日：内田日銀副総裁、静岡県金融経済懇談会で講演 米：ADP雇用統計 (2月) 米：ISM非製造業総合景況指数 (2月)
3/6 (木)	▲ 1,000	+ 1,000	トン				米：新規失業保険申請件数 (3月1日終了週) 米：貿易収支 (1月) 欧：ECB政策金利発表・ラガルド総裁記者会見
3/7 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (30年)			日：コール市場残高 (2月) 米：雇用統計 (2月) 欧：ユーロ圏GDP (4Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆3,000億円増加の531兆8,700億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、28日は531兆2,600億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、一部金融機関による試し取りが行われたことにより、0.479%から始まり、

その後は試し取り要因が剥落し、同金利は0.477%で推移した。

ターム物は1W~3W物0.500%~0.650%のレンジ、1M~3M物0.53%~0.70%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、5日に内田日銀副総裁の静岡県金融経済懇談会での講演、海外では、4日に米トランプ大統領の議会演説、7日に米雇用統計 (2月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.47 ~ 0.478
1M	0.55 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.80
6M	0.65 ~ 0.90

<レポ>

足許GC取引は週初+0.48~+0.49%で出合い。輪番オペのあった26日も水準に変化は見られなかった。月末受渡となる27日の取引では+0.45%近辺から出合い始めたが、引けには+0.40%まで低下した。国債と短国の発行が重なる28日は、+0.47%~+0.48%で終日取引された。

SC取引は2年460~468回債、5年155~174回債、10年355~370回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40近辺
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CCP>

今週の入札発行総額は約3兆200億円で、週間償還額の3兆3,577億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆5,994億円から、2月27日時点で25兆9,825億円に増加した。発行市場は、機械、食料品、石油製品、不動産業、建設業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。先週に引き続き、入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台前半、3か月物は0.50%台後半から0.60%台前半と横ばい水準での出合いとなった。

来週の償還額は、1兆2,700億円となっている。発行市場は、四半期末の残高調整の影響により、ショートターム物を中心として、償還と同程度の発行が見込まれる。3月5日に予定されている内田副総裁の発言内容によっては目線が変わる可能性がある。発行レートは、1か月物で0.50%台前半、3か月物で0.50%台後半から0.60%台前半と、横ばい水準での出合いを予想する。

<TDB>

28日の3M (1290回債) の入札は、最高落札利回り0.3432% (前回債0.3226%)、平均落札利回り0.3255% (前回債0.3096%) となった。

来週の入札は6日に6M、7日に3Mが予定されている。